

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会

時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信夫

両団体理事長 半田 晴久

環境技術委員長 坂本 忠彦

両団体専務理事 清原 淳平

環境技術委員会のお知らせ (第344回)

日時 平成30年2月22日(木) 午後1時半～4時

場所 衆議院第一議員会館 地下1階 第5会議室

千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より2分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第5会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

議題 1、「環境問題について、昨今、思うこと」

挨拶 坂本忠彦環境技術委員長

2、河川中の放射性セシウム除去につながる溶解阻害物質の解明

解説 高橋嘉夫東京大学理学系研究科教授

3、『環境技術関連ニュース NO.166』

解説 中島稔科学技術部会長

報告 去る平成29年12月19日開催の第342回環境技術委員会は、坂本忠彦委員長が議長を務め行われました。まず、坂本委員長より、「環境問題について、昨今、思うこと」と題して開会挨拶がありました。このところ東京は寒い日が続いている。季節に見合った状況だといえるが、ある天気予報の解説では、その原因も地球温暖化だという。温暖化によって熱帯で大量の水蒸気が出て上昇気流が発生し、その空気が北極で降り、強力な高気圧となって寒気になるといいます。

次に、清原淳平専務理事より、当日の講師・久保由治首都大学東京教授の経歴紹介がありました。次に、久保教授より、「テロ対策に活用

する色素による爆発物検知技術」について解説がありました。2年前にパリのテロ事件で使われた爆弾は、アセトンに過酸化水素水を加えて作ったものだが、アセトンも過酸化水素水もホームセンターなどで容易に購入できるものである。簡易爆弾に使われる素材には必ず過酸化水素水が使われており、これを検知できれば、爆発物の発見に役立つ。これまで、温風器とセンサーを組み合わせる方式、ルミノールと酵素を用いた発光式などが試されてきたが、設備の大型化やコストの問題もあり、何よりテロリストは検知器など通過しない。もっと簡易な方法で発見できる方法はないか、ということで、ピナコールボリル基を利用して、過酸化水素が反応して赤く発光する方法を試したが、別途に光が必要だった。次に、過酸化水素に反応して赤から青に変化するジピリン金属錯体を利用した。高濃度であれば1分で検知でき、試験紙と色差計を使えば濃度も判別できる。現在は、反応時間を早める実験を行っている。

次に、中島稔科学技術部会長より、『環境技術関連ニュース No.165』の解説がありました。今回は、COP23閉幕。石炭火力の利用で各国に温度差。ドイツや次回のCOP24開催国ポーランドは脱石炭連合に入らず、英国・カナダ・フランスなどの再生エネルギー推進諸国とは溝があり、アメリカと並んで途上国の石炭火力発電所新設補助に動く日本にも、非難の声が。○有機堆肥でヘドロ除去技術。主成分は乳酸菌、酵母菌、紅色硫黄細菌群で、鶏糞の消臭用として利用されていた。○国産レアアースを使った製品の試作に成功。取り出すコストにはなお課題。○石炭火力のCO2を再生エネルギー水素でメタンに変えて有効利用する技術。○電子レンジを使って自動車用使用済み触媒から白金を取り出す技術。○微生物で鉱山廃水を浄化する技術。薬剤より低コスト。などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

★レクチュアにつき、当日会費千円にご協力をお願い申し上げます。

次回、2月22日(木)の環境技術委員会に

出 - 欠 (いずれかに○印)

御芳名 _____

貴方様のFAX _____

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

非会員で参加希望者は、2日前までに履歴書をご提出下さい。

(その際の当日会費は二千円となります。)

事務局宛FAX 03-3507-8587

公益財団法人協和協会 03-3581-1192 時代を刷新する会 03-3272-4320

ホームページ <http://www.kyowakyokai.or.jp> Eメール shigeta@jidaisassin.jp